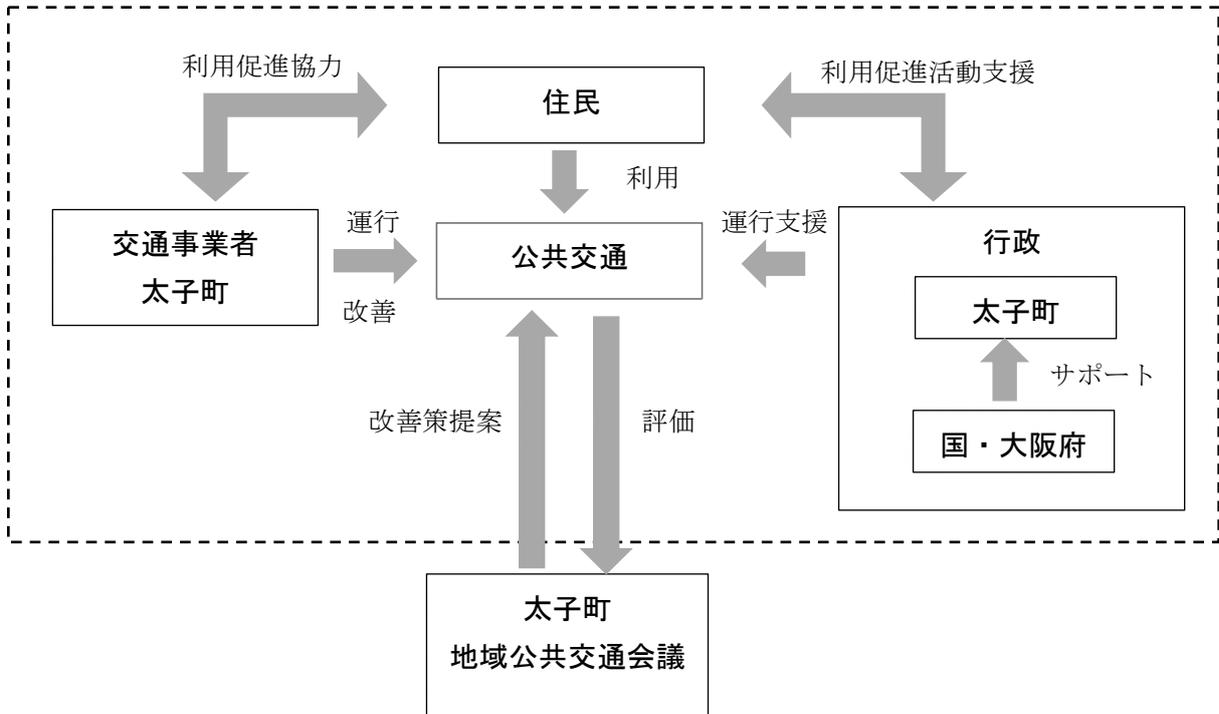


## 9. 計画の達成状況の評価

### 9-1. 評価体系

#### (1) 体系

地域公共交通会議を継続し、地域公共交通の利用状況を定期的かつ適正に評価し、地域の公共交通の維持に努めます。



▲ 太子町地域公共交通会議の体系

#### (2) 評価の考え方

本計画で設定した目標を達成するため、5年間の計画を通じた評価に加え、施策の取組状況や社会情勢の変化を踏まえ、1年単位での指標の把握や評価を行い、見直しも実施します。

これまで行政計画の進捗管理に活用されていたPDCAサイクルに加え、常に変化・改善が求められる公共交通の分野であることから、OODAループを用いた評価を行います。

PDCAでは、当初立てたPlanがスタートとなり、進行中の管理・監視が最重要視されるため、プロセスが重要視されます。このような特徴を持つPDCAに比べて、OODAは観察やそれにとまらぬ状況判断に重きを置いており、多様化する市民ニーズや変化の速い社会情勢に対応する柔軟な判断や迅速な実行が最優先となります。

目標を達成していない場合は、さらなる利用促進、運行形態の見直し等、達成するよう関係者一同において努力をしていきます。

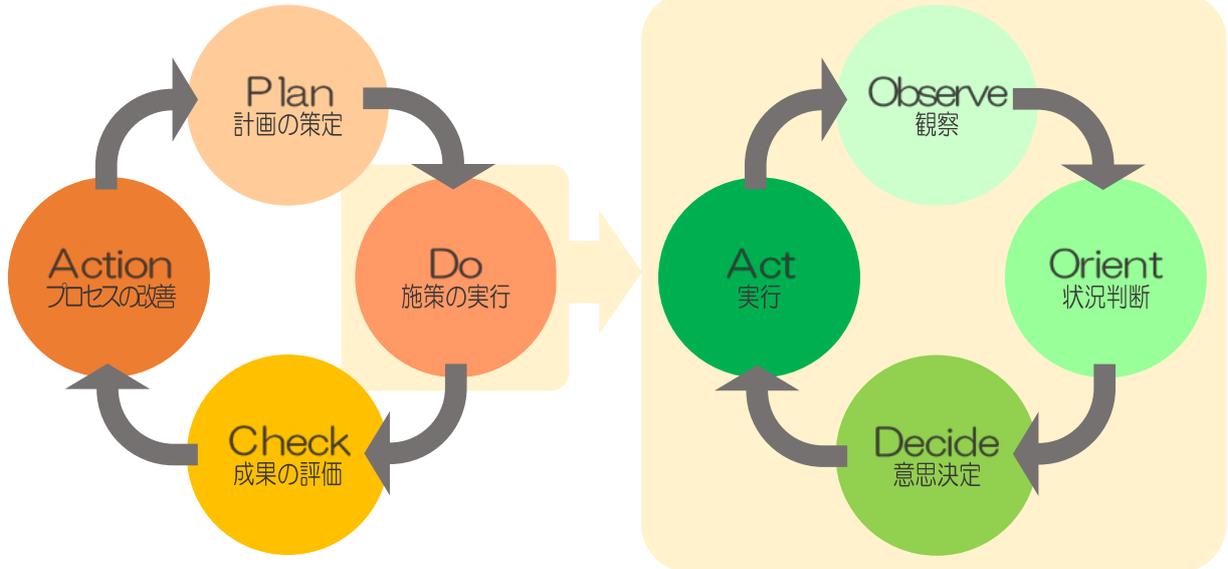
## 地域公共交通施策

長期的な見直し

PDCA  
プロセスを重視する

短期的な見直し

OODA  
状況判断を重視する



### PDCA とは

- Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善) の頭文字をとったものです。
- 目標を達成するための要素を 4 つの段階に分けて成功に導く方法を示したもので、これらを繰り返し実行します。
- Plan: 目標をたて、それを実行するための施策を計画します。
- Do: 上記の計画に沿って、施策を実行していきます。
- Check: 施策の実行により目標が達成できているかを評価し、良かった点と悪かった点を分析します。
- Action: 評価結果に基づき、良かった点は継続し、悪かった点は施策を見直します。

### OODA とは

- Observe (観察)、Orient (状況判断、方向づけ)、Decide (意思決定)、Act (行動) の頭文字をとったもので、分かりやすくいうと「みる」「わかる」「きめる」「うごく」となります。
- 目標を達成するための要素を 4 つの段階に分けて成功に導く方法を示したもので、これらを繰り返し実行します。
- Observe: 相手 (対象や状況) をよく観察します。客観的なデータを収集します。
- Orient: 上記の観察結果に基づき、状況を判断し、方向付けを行います。
- Decide: 今後の具体的な方針や行動プランを策定します。
- Act: 実際の行動となります。

## 9-2. 評価基準

毎年、各種指標の把握・分析を行い、計画最終年の目標に向けた適切な各施策の実施に取り組みます。

- ① 最終計画年の5年後に目標ごとの指標を評価【PDCA】
- ② 毎年、施策推進のための指標を評価（利用や人に視点をおいた指標を重視）【OODA】

### ▼ 計画全体の評価指標

目標	指標	数値目標	計測方法
目標1 誰もが利用できる地域公共交通網の形成	路線バス等の利用者数 (毎年評価/OODA)	【現況】 太子線、太子葉室循環線の乗車人数計 平日：700人/日 休日：520人/日 (H30年度調査結果) 【目標】 太子線、太子葉室循環線、新規検討路線の乗車人数合計 平日：1,000人/日 休日：700人/日	利用者数調査
	拠点施設への乗り入れ本数 (5年後評価/PDCA)	【現況】 六枚橋（役場） 平日：56便 休日：47便 【目標】 六枚橋（役場） 平日：80便 休日：65便	時刻表
	収支割合 (毎年評価/OODA)	【目標】 新規検討路線の収支率：20%	支出・収入情報
目標2 みんなで支える地域公共交通の活性化	公共交通の利用者割合 (5年後評価/PDCA)	【現況】 路線バスの利用割合 平日：5.2% 休日：3.9% 【目標】 路線バスの利用割合 平日：7.4% 休日：5.2%	利用者数、住民基本台帳人口
	モビリティマネジメントの実施回数 (5年後評価/PDCA)	【目標】 イベントでの利用促進やバス乗り方教室等の開催回数 1回/年	実績をカウント
	継続に向けた体制づくりの実施回数 (5年後評価/PDCA)	【目標】 公共交通に関する意見交換会、検討会、会議等の開催回数 3回/年	実績をカウント

目標	指標	数値目標	計測方法
目標3 地域公共交通を活用した多様な人の交流	観光施設・商業施設の利用者数、降車数 (毎年評価/OODA)	<b>【現況】</b> 観光施設（年間竹内街道歴史資料館） 入場者数：5,015人/年 商業施設の周辺バス停での降車数 平日：34人/日 休日：13人/日 （太子四ツ辻での降車数） <b>【目標】</b> 観光施設（年間竹内街道歴史資料館） 入場者数：6,000人/年 商業施設の周辺バス停での降車数 平日：50人/日 休日：20人/日 （太子四ツ辻と商業施設周辺バス停での降車数）	利用者数調査
	他部局の評価 (毎年評価/OODA)	<b>【目標】</b> まちづくりへの貢献度 （貢献度を点数化し8割以上）	ヒアリング調査
	高齢者の外出 (5年後評価/PDCA)	<b>【現況】</b> 65歳以上：60.3% （平成22年近畿圏パーソントリップ調査） <b>【目標】</b> 65歳以上：60.3%《現状維持》	アンケート

## 参考 SDGs の取り組み

### 【SDGs とは】

持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットにおいて、全会一致で採択された国際目標です。

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標で、その下に、169のターゲット、232の指標が定められています。

発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むべき課題であること、また、自治体を含めた様々なステークホルダーが取り組むべき目標とされています。



### 目標「11.住み続けられるまちづくりを」

持続可能な都市は、持続可能な開発のための2030アジェンダを構成する17のグローバル目標の一つです。複数の目標を同時に達成するためには、包括的なアプローチが必要不可欠です。

そのために本計画では、地域公共交通の視点から持続可能なまちづくりにアプローチを行っています。計画策定で終わりではなく、PDCAやOODAに則り、継続的に見直しを行い、持続可能なまちづくりに貢献します。